

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2020

日本語科学

Japanese Linguistics

5

1999年4月

April, 1999

国立国語研究所

The National Language Research Institute
Tokyo, Japan

日本語科学 5

Japanese Linguistics 5

国立国語研究所

The National Language Research Institute

1999年4月

April, 1999

-
- 21世紀におけることばの役割—求心性と多様性— 3
小池 生夫

研究論文 Articles

語彙概念構造レベルでの複合

Compounding on the level of Lexical Conceptual Structure

小林 英樹 KOBAYASHI Hideki 7

東京と大阪の談話におけるあいづちの種類とその運用

Analysis of back channel items in Tokyo and Osaka Japanese

ヤスコ・ナガノ・マドセン Yasuko NAGANO-MADSEN

杉藤 美代子 SUGITO Miyoko 26

富山県における指定辞「ダ・ジャ・ヤ」の分布と変遷

The distribution and the history of copulas in Toyama Prefecture

小西 いずみ KONISHI Izumi 46

外来語アクセントにおける原語の発音の関与について—4モーラ以下の語を中心に—

On the relation of Japanese loanword accentuation to the pronunciation of the original word

田野村 忠温 TANOMURA Tadaharu 67

高知県方言の副助詞「バー」の意味機能

The semantic functions of the auxiliary particle *baa* of the dialect of Kochi Prefecture

上野 智子 UENO Satoko 89

調査報告 Report

国語辞典編集のための用例データベース

“Yoorei database” for dictionary compilation

木村 睦子 KIMURA Mutsuko

加藤 安彦 KATO Yasuhiko

田中 牧郎 TANAKA Makiro

109

談話研究のツールとしての転記エディターと談話データベース

亀山 真一 KAMEYAMA Shinichi

129

世界の言語研究所(5) 語言文字応用研究所(中国)

胡 士雲

古川 裕

143

国立国語研究所創立50周年記念事業 見聞録

片桐 恭弘

近藤 泰弘

147

第7回 国立国語研究所国際シンポジウムご案内

151

既刊内容(第1号~第4号)

投稿規定・執筆要領

編集委員会からのお願い

編集後記

第7回 国立国語研究所国際シンポジウム ご案内

国立国語研究所は毎年国際シンポジウムを開催しています。

平成11年度も以下のような企画が進行中です。

シンポジウム全体会は公開で行います。

その他に、5つの専門部会を開催します。

専門部会は、公開またはあらかじめお申し込みいただいた方の参加によって行います。

《シンポジウム全体会》

期日：平成11年7月25日(日) 午前10時～午後5時

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京代々木)

テーマ：バイリンガリズム —日本と世界の連携を求めて—

Bilingualism — Networking between Japan and the World —

日-英語間の同時通訳つき

プログラム

午前：趣旨説明 佐々木倫子 Sasaki, Michiko (国立国語研究所)

発表① 東 照二 Azuma, Shoji (ユタ大学)

個人にとってのバイリンガリズム, 社会にとってのバイリンガリズム

Bilingualism of Individuals and Bilingualism in Societies

発表② 西村美和 Nishimura, Miwa (アメリカン大学)

コード・スイッチング —日系カナダ人と日系ブラジル人を比較して—

Code-switching — Comparison between Japanese Canadians and Japanese

Brazilians —

午後：発表③ LoCastro, Virginia ロカストロ・ヴァージニア(アメリカ諸国大学)

日系メキシコ人児童のスペイン語と日本語運用

Spanish and Japanese Use Seen in Japanese Mexican Children

発表④ 中島和子 Nakajima, Kazuko (トロント大学)

カナダにおける継承語教育

Heritage Language Education in Canada

発表⑤ Kanagy, Ruth カネギ・ルース (オレゴン大学)

英語母語児童の日本語習得のためのイマージョン環境

Immersion as Context for Japanese Language Acquisition by English-

speaking Children

総括質疑・討論

《第1 専門部会》(公開)

期日：平成11年7月24日(土) 午前10時～午後5時

会場：国立国語研究所講堂

テーマ：日系ブラジル人のバイリンガリズム

プログラム

午前：発表① 久山 恵(ブラジリア大学)

ブラジル日系一世の日本語におけるポルトガル語借用

—借用頻度と社会的要因との関連性について—

発表② 上甲アリセ(ブラジリア大学)

ケーススタディ ある日系ブラジル人二世のバイリンガリズム

発表③ 松尾 慎(大阪大学大学院)

ブラジル日系移住地における言語生活

—ある日系移住地におけるフィールド調査より—

午後：発表④ 佐々木倫子(国立国語研究所)

日系子弟のバイリンガル教育 —ブラジルとハワイの事例から—

発表⑤ 三井豊子(三重大学)

在日日系ブラジル人に見られる日本語運用から —常体と敬体の使い分け—

発表⑥ 石井恵理子(国立国語研究所)

在日日系ブラジル人児童の日本語およびポルトガル語能力調査より

意見交換

会場において、在日外国人児童・生徒のために作成された教材の展示を行います。

以上は3月末現在での予定概要です。第2～第5専門部会の内容は今後具体化され、その他の変更もありえますので、詳細はホームページをご覧ください。

問い合わせ先 国立国語研究所日本語教育センター

〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14

中道真木男 電話 03-5993-7661 E-mail makion@kokken.go.jp

早田美智子 電話 03-5993-7660 E-mail mihayata@kokken.go.jp

ホームページ <http://www.kokken.go.jp>

既刊内容（第1号～第4号）

【第1号】（1997年4月）

- 創刊のことば 水谷 修
字体に生じる偶然の一致—「JIS X 0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」—
笹原 宏之
連用形の時制指定について 三原 健一
過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合— 井上 優・生越 直樹
Phonological characteristics of Japanese-derived borrowings in the Trukese of
Micronesia Shinji SANADA
オーストラリア・ビクトリア州の通訳サービスと日本語 平野 桂介
『東京語アクセント資料』と辞書アクセント—尾高型アクセントを事例とした資料評価—
相澤 正夫
雑誌九十種表記表の統計 宮島 達夫
助動詞「ない」の連用中止法について 金沢 裕之
「レキシコンにおける名詞」プロジェクトについて ヨハナ・マティセン
世界の言語研究所(1) 国立国語研究院（韓国） 生越 直樹

【第2号】（1997年10月）

- 言語の「科学」に思うこと 鈴木 孝夫
安居島方言アクセントについて 清水 誠治
Survey of standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three
surveys conducted at 20-year intervals Masato YONEDA
Market value of languages in Japan Fumio INOUE
温度を表す形容詞の意味体系—《物》と《場所》の対立— 久島 茂
買物における挨拶行動の地域差と世代差 篠崎 晃一・小林 隆
雑誌三種の表紙における文字使用の変化 中野 洋・中川 美和
世界の言語研究所(2) CSLI（アメリカ合衆国） 加藤 安彦
第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告

【第3号】（1998年4月）

- 「…的」と「ポストモダン」など 大岡 信
程度副詞と主体変化動詞との共起 佐野 由紀子
京阪方言における親愛表現構造の枠組み 岸江 信介
連体修飾節のテンスについて 岩崎 卓
「前提・焦点」構造からみた「は」と「が」の機能 天野 みどり
例示の副助詞「でも」と文末制約 森山 卓郎
翼を持った日本語 1987～1994年度出版を中心に見る渡米語 エツコ・オバタ・ライマン
言語の対照研究と言語教育 佐々木 倫子
世界の言語研究所(3) インド国立科学ドキュメンテーションセンター INSDOC（インド）
チャウラ・K・アショク

第5回国立国語研究所国際シンポジウム（第4専門部会）報告

【第4号】（1998年10月）

脚本の醍醐味

日本語動詞の活用体系

現代日本語の不完結相 —シツツアルの意味記述—

標準語法の性格

年少者日本語教育に関する教師の言語教育観

水海道方言の対格 —有生対格と無生対格の統語論—

富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述

世界の言語研究所(4) 中国社会科学院 語言研究所(中国)

国立国語研究所創立50周年記念事業／第6回国立国語研究所国際シンポジウム・

新プロ「日本語」国際シンポジウム ご案内

寺島 アキ子

ハイコ・ナロク

副島 健作

田中 章夫

岡崎 敏雄

佐々木 冠

井上 優

古川 裕

『日本語科学』投稿規定・執筆要領

(1999年4月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回(4月, 10月)発行する。(投稿の受付は随時)

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類, 分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。投稿原稿の種類と分量(タイトル, 氏名, キーワード, 要旨, 概要を含む)は以下のとおり。

研究論文: オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調査報告: 調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート: 問題提起, 事例報告, 中間報告などの小論文。(10ページ程度)

この他, 所内外の研究者に**展望論文**(研究動向, 現時点での課題, 将来の展望などについて論じた論文, 20ページ程度), **書評論文**(20ページ程度)の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし, 例文等において中国漢字(簡体字・繁体字), ハングル, キリル文字, ギリシャ文字を用いることは可(それ以外の文字はローマ字化)。
- 2) 原稿は**A4判横書き, 43字×36行**で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き, 30字×21行×2段。)英文の場合は半角86字×36行を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には, **キーワード**(5つ以内), **要旨**(問題と結論の要約, 10行程度), **概要**(議論全体の概要, 英文は250語以内, 和文は20行以内)をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合, 要旨・キーワードは日本語, 概要は英語を用いる(概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合, 要旨・キーワードは英語, 概要は日本語を用いる(概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。

著者名(発表年)「論文タイトル」『書名/雑誌名』巻号(雑誌の場合) ページ 発行者

6. 査読

研究論文, 調査報告, 研究ノートは, 編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査する。編集委員会は, 査読結果にもとづいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者

に公開せず、査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）」を明記の上、原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

8. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採録決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

補足1：文献一覧書式

宮島 達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版

井上 優・生越 直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因－日本語と朝鮮語の場合－」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz (ed.) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions. *Language* 51. 1-31.

編集委員会からのお願い

投稿は随時受け付けますが、一応の目安として、4月刊行の号については前年の12月末日、10月刊行の号についてはその年の6月末日までにご投稿いただければ幸いです。

12月末日／6月末日以降に投稿された論文でも、審査の進み具合によっては、4月／10月刊行の号にただちに掲載されることもありますので、投稿の際は原稿の内容や体裁について十分に吟味してください。

全体の分量の関係で審査を通過した論文のすべてを掲載できない場合は、受理日が早い論文から先に掲載し、掲載できなかった分は次の号に掲載します。

原稿執筆の際は『日本語科学』投稿規定・執筆要領をよくお読みください。（書式の詳細については『日本語科学』所収の論文を参照してください。）また、原稿はできるだけできあがりのイメージに近いものをお送りください。

以下の点には特に留意してください。

- 1) 要旨とキーワードを本文の前につけてください。
- 2) 参考文献の後に、著者の氏名（ふりがな）、所属、連絡先（住所、電子メールのアドレスなど）をつけてください。
- 3) 論文の最後の1ページは概要（タイトル、著者氏名、キーワードを含む。和文論文の場合は英語、英文論文の場合は日本語）にあててください。概要は、論文の内容が把握できるよう、要旨よりもくわしい内容にしてください。
- 4) 論文の分量は、タイトル、氏名・所属、要旨、キーワード、本文、概要の合計が規定の分量を大幅に超過することがないようにしてください。
- 5) 英文のネイティブ・チェックは著者の責任でおこなってください。
- 6) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に編集委員会までお知らせください。

編集後記

昨年度は国立国語研究所にとっていろいろな出来事のあった年であった。ひとつは、昨年12月に50周年記念行事を行ったことである。そのうちの一部を本号に掲載した（調査報告「国語辞典編集のための用例データベース」、およびATRの片桐恭弘氏と青山学院大学の近藤泰弘氏による「研究室公開」の見聞録）。なお、この行事の一端は国立国語研究所創立50周年記念誌に、さらに国連大学で開催されたシンポジウムは報告書『国際社会と日本語』として近く発行される予定である。

もうひとつは、研究所の研究・事業について、初めての外部評価が行われたことである。その評価項目に本誌も対象となっており、刊行の意義や学術雑誌としての内容には高い評価をいただいたが、さらなる充実・発展を求められている。

この号の英文校訂は国立国語研究所招聘研究員の宮城紀美氏にお願いした。本号から第2期の編集委員会が担当することになるが、皆様のご助言・ご協力のもとに、いろいろ努力したいと考えている。

編集委員

- 江川 清 (委員長, 国立国語研究所)
井上 優 (国立国語研究所)
熊谷 智子 (国立国語研究所)
鈴木 美都代 (国立国語研究所)
田中 牧郎 (国立国語研究所)
塚田 実知代 (国立国語研究所)
藤井 聖子 (国立国語研究所)
横山 詔一 (国立国語研究所)

『日本語科学』5

1999年4月

国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL.03-3900-3111(代表)

[本書の市販品発行所]

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村2-10-5
TEL.03-5970-7421